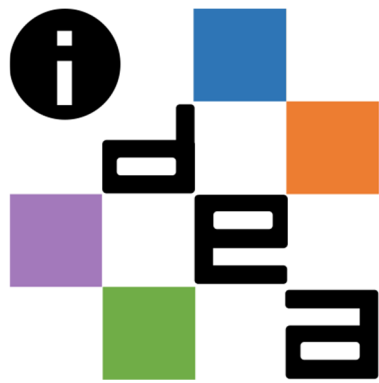


NPO・行政・企業・地域の情報発信により、アイデアと出会いの機会を創ります。
ニュースレター アイデア



2018

11月号

つながり×ひろがる

いちのせき市民活動センター



- | | | |
|---|---------|----------------------|
| 1 | 二言三言 | 豊かな川環境を守り、将来に残すために |
| 3 | 団体紹介 | 花菜油の会（大東） |
| 4 | 地域紹介 | 舞川17民区（一関） |
| 5 | 企業紹介 | 花泉味噌醤油株式会社（花泉） |
| 6 | センターの〇〇 | センターの自由研究 運動会のおもしろ種目 |

豊かな川環境を守り、将来に残すために

対談者 砂鉄川漁業協同組合 組合長 松岡俊太郎さん

聞き手 いちのせき市民活動センター センター長 小野寺浩樹

生態系の保全と川環境を守る

【小野寺】はじめに砂鉄川漁業協同組合さんの組織と活動内容について教えてください。



砂鉄川漁業協同組合
組合長 松岡俊太郎さん

【松岡】まず組織についてですが、砂鉄川漁業協同組合は、門崎・松川・長坂・摺沢・興田・猿沢・大原と7つの支部があり、県本部は岩手県水産会館にあります。砂鉄川の漁業区域は川崎町の門崎から大東町の大原・興田くらいまでなんですが、私たちはそこで鮎・ヤマメ・イワナ・鰻・モクズガニといった魚を放流したり、自然増殖させたりと、川の生態系や環境を守る活動をしています。

【小野寺】漁協さんで放流をされているんですね。

【松岡】ええ。あとは川の管理ですね。土木業者が河川工事をする時は、私達の了解が必要なんです。工事で川が濁ったりすると、魚の増殖に影響が出てしまうので。だから川を濁らせたり、勝手なことはしないでくださいとお願いしています。ほかには、会議で釣りやガラ掛け（大きい針が多数ついた仕掛けで、川底をなぞり鮎を直接引っかけて釣る漁法）の解禁日を決めたり、新規組合員の入会審査などを行ったりしていますね。

【小野寺】市内にはほかにも漁協さんはありますか？

【松岡】磐井川上流漁業協同組合は厳美の長者滝橋から上流でイワナやウグイを放流しています。室根漁業協同組合もありましたが、3~4年ほど前に解散しました。磐井川に漁協はなく、市や釣り愛好家の有志が魚を放流しています。

【小野寺】室根漁協さんはなぜ解散したんですか？

【松岡】組合員がいなくなってしまったんです。

【小野寺】組合員離れの原因は何でしょう？

【松岡】若い人たちが組合に入らないことと、年をとった人達はいつまでもできないでしょう。なので将来、子ども達にも組合員になってもらおうと、去年は興田小学校で学習会をやったりもしました。

【小野寺】組合員になるには何か条件はありますか？

【松岡】誰でもすぐに組合員になれるわけではなく、ある程度、年間の入漁権(※)を買っていて実績があり、「この人なら間違いない」という推薦もほしいですね。

実は、魚の放流数は組合員の数に関与しているんですよ。組合員の出資金や年会費などを元手に放流する魚を買っているのだから、組合員が減れば放流数も減ってしまうんです。川に魚が減り、釣れなければパタッと釣り人は来なくなりますから。なので、ある程度放流しなければお客さんは増えません。



放流の様子。漁協組合員さんによる魚の放流や環境整備により砂鉄川の美しい風景が保たれています。

【小野寺】なるほど。ではそこが今の砂鉄川漁協さんの課題なのではないでしょうか？

【松岡】そうですね。少しでも組合員増に繋げるために、砂鉄川漁協では、磐井川の上流（厳美の長者滝橋より上流）に住んでいる方以外の市民なら、どなたでも組合員申請ができるようにしています。

【小野寺】先ほど話されていた「年券」とは年間を通して魚を捕ることができる券のことですね。コンビニでもよくチラシを見かけます。

【松岡】はい。漁協があると入漁権が発生しますから

ね。これらを買わないと、モクズガ二等も含めて、川で魚を釣ったり捕ったりする行為は禁止です。雑魚も全て対象に入っています。ですが、実際は入漁権を買わずに行う人もいますので、改めて皆さんに知ってもらいたいですね。入漁権の取扱所はホームページに載せていますし、もしご不明な点などあればお問い合わせいただければありがたいです。

※入漁権の料金

《鮎釣り》年券7,000円・日釣り1,500円（一般）

- ・身体障がい者と75歳以上は一般料金の半額
- ・小学生と中学生は無料

《溪流釣り》年券5,000円・日釣り1,000円（一般）

外来魚や鳥が日本の魚を減らす

【小野寺】今年魚の状況はどうか？

【松岡】今年が良いですよ。その年によって、当たり・ハズレがありますからね。

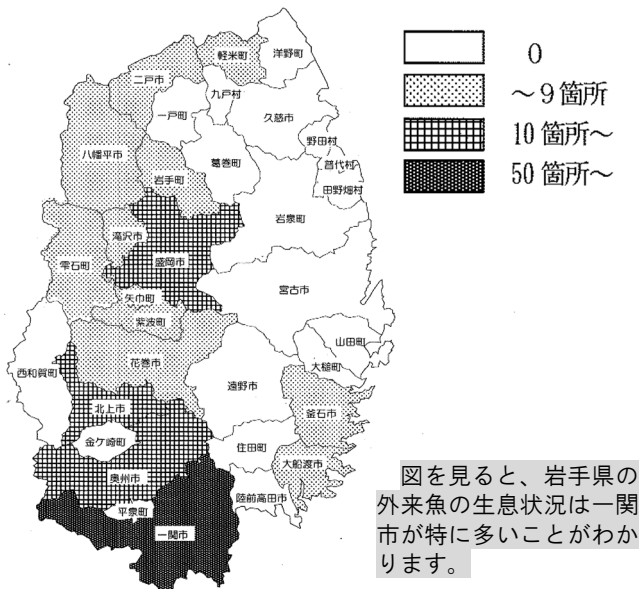
【小野寺】その当たり・ハズレは、何によって左右されるのでしょうか？

【松岡】台風や大雨が降れば魚は流されますし、逆にカンカン照りだと、コケが付いた石の泥が乾き、コケがあまり食べられず大きくなれなかったりということもあります。季節ごとに稚魚を放流しますが、大きくなれずに釣れなかった年もありました。

【小野寺】餌になるコケを食べられるようにするなど、そういう環境整備も重要なんですね。釣りといえば、最近は、鮎やヤマメといった魚のほか、バス釣りをする方もよく見かけますよね。

【松岡】ブラックバスやブルーギルといった外来魚は、県内でも一関市が特に多いんですよ。ブラックバスは、鮎などの日本の魚を食べてしまいますし、ため池や堤に離すと川にも流れてきてしまうんですね。バス釣りをする方は、キャッチ&リリースではなく、釣ったら捨てるか持ち帰るかにしてもらいたいです。

岩手県 市町村別外来魚生息状況
(平成29年12月31日現在)



【小野寺】市内にはため池や堤が多いですからね。砂鉄川にもいるんですか？

【松岡】います。外来魚は私達の敵なんです。カワウやシラサギもそうですね。カワウは1回水に潜れば10匹も魚を飲み込みますから。

【小野寺】そういった魚や鳥の問題もあるんですね。

講習会から釣りを始めてみる

【松岡】私達の1番の課題は、やはり高齢化と組合員が減ってきているということですね。若い人達を組合員に入れるために、放流事業や、釣り道具を見せたり釣り方を紹介したりといった子ども向けの学習会を行っています。そういった活動を増やしていき、将来は組合員になってもらえればと思います。

【小野寺】解禁日になってから、鮎釣りの人たちが川に入り魚釣りをしている様子は良い景観だし、砂鉄川の一つの風物詩だと思っています。僕も釣りをしてみたいなと思っても、きっかけがなかったり、誰に教われば良いかもわからなかったりで、なかなかできないんですが…。

【松岡】年に1回、長坂の伊藤稔さんを講師に鮎釣りやイワナやヤマメの溪流釣り講習会を行ったりしていますよ。「こんな仕掛けを作ってください」「こんな場所で作ってください」とかね。



講習会で講師を務める釣り名人の伊藤稔さん

【小野寺】そういった講習会の開催が、釣りデビューのきっかけになれば良いですよ。子ども達向けだけでなく、僕たち40代くらいの世代でも川釣りに興味を持ってデビューしていく年代だと思うので、そういう青年層向けにも、漁協さん主催の釣り教室や1日体験などを開催してほしいですね。

組合員さんは全体的に減ってきているようですが、興味がある人は少しずつ入漁権を買ってもらいながら実績を積み、組合員になってもらえればと思います。

砂鉄川漁業協同組合

電話:0191-74-2418

HP: http://www.kiddy.co.jp/ayunip/iwate/satetu_new.html

※写真は岩手県内水面漁業協同組合連合会、図は岩手県内水面漁場管理委員会より引用しました。

団体 紹介



右：代表 勝部 欣一さん
左：事務局兼営業 佐野 幸弘さん

～基本情報～

- ◆代 表：勝部 欣一さんきんいち
- ◆住 所：〒029-0523
一関市大東町摺沢字菅生前 61-26
北部農業技術センター内
(花菜油の会事務局)
- ◆電 話：080-2809-2274
- ◆F A X：0191-75-2923

豊かな農村の景観と食生活をめざして

地域内資源循環型農業の樹立

皆さんは「菜の花プロジェクト」をご存知でしょうか？これは、昭和50年代以降深刻化した琵琶湖（滋賀県）の水質悪化を危惧し、“合成洗剤に代えて「せっけん」を使おう運動”と“家庭から出る廃食油を回収し、せっけんへリサイクルする運動”をきっかけに、「地域自立の資源循環型社会の構想」から発展し、「①地域内で排出される堆肥を活用し、遊休農地で景観作物の菜の花を栽培②収穫したナタネから搾った油は食用油に③ナタネ粕は飼料や堆肥に④廃食油はバイオ燃料やせっけんにリサイクルする」という地域内資源循環型農業を実践する全国的に展開されている取り組みです。

旧大東町では、大東町農業技術センター支援の下、遊休農地の活用、地産地消、安全な食生活、循環型農業等をめざし、平成15年、「菜の花プロジェクト」に賛同する農家の女性を中心となり「花菜油の会」を設立。当初は32人が82aに菜の花を栽培して、プロジェクトが始まりました。

一関市全域に広がる“菜の花ネットワーク”

地元農家の女性陣で立ち上げた「花菜油の会」ですが、特産品の開発や収穫作業を通じて男手も加わり、平成16年には「菜の花プロジェクト受託組合（コンバインの導入）」を、翌年には搾油工場「工房地あぶら（現：株式会社テクノボンズ）」を設立。この3本柱を「菜の花プロジェクト in 大東」として地域内資源循環農業を確立していきながら「花菜油の会」では「自分たちの畑で採れた本物のナタネ油を食べよう」をモットーに、自家消費・地産地消の在り方を考え、特産品の開発、菜の花環境学習会、農村景観形成や遊休農地解消の支援を行ってきました。「特に菜の花環境学習会の一環として行った“菜の花マップ”の作成や“菜の花写真コンクール”の開催は多くの方々が菜の花を知り、ナタネ油に興味を持つきっかけの一つとなった

ようです」と語るのは、二代目代表の勝部欣一さんです。「同時期には、じゅうねん（エゴマ）やゴマも栽培し、県内業者との農商連携開発商品としてエゴマ醤油、エゴマつゆ、エゴマドレッシングなども発売され、農家のお母さん方にはより一層の励みとなりました」と続けます。新一関市になってからは、菜の花の生産活動を「菜の花ネットワーク一関」として一関市全域に広がりを見せていきました。

今ある農村風景を後世に残し続けたい

平成19年には、会員90名、栽培面積12haで栽培され、市町村合併に伴う新組織・菜の花ネットワーク一関は146名まで増加。当時は7～8割が60～70代の女性が中心でしたが、その後、中心メンバーが引退され、現在、菜の花ネットワーク一関会員としてナタネやエゴマを栽培している登録会員は約60名で、栽培面積の大きい地域の集落営農組織も加入していますが、会員数や栽培面積は減少傾向にあるようです。会員が自家消費する以外のナタネ油やエゴマ油を販売し、この生産活動を支えているのが花菜油の会です。事務局の佐野幸弘さんは「菜の花は育てるうえで米栽培のような手間暇はかかりません。そのため一人ひとりが生産する面積を広げることで、ナタネの収穫は例年通りとなっています。ただ、高齢化や後継者不足など課題も出はじめ、今後、会としてより一層生産者の支援が必要になってきています」と、同会の課題解決に向けた取り組みも考えている様子でした。

最後に、代表の勝部さんからは、「4月下旬から5月にかけて、見頃を迎える菜の花。緑の野山に映える鮮やかな黄色は昔から続いてきたものです。田畑を荒らすことなく次世代の取り組みが繋がるように今後も活動していきたい」と語っていただきました。



花菜油の会の各種製品は、市内の産直で販売しています。

地域紹介



区長 小野寺伸幸さん

～基本情報～

- ◆区長：小野寺伸幸 さん（1期1年目）
- ◆舞川郵便局の西側に位置する舞川 17 民区。昔ながらの伝統的農耕の継承とその美しさで知られる金山棚田をはじめ、至る所で原風景が感じられるこの地域には現在 44 世帯 150 人が暮らしています。

等身大の兼業区長

勤務と区長の兼業から半年

「特別取材されるようなことは何もしていないから多分 10 分くらいで話が終わると思いますよ」取材をお願いする電話に、笑いとおどろきの入り混じった声でそう話してくれたのは、舞川 17 民区（以下「17 区」）の区長、小野寺伸幸さん。今回は区長になってまだ半年という新人区長であり、68 歳の今も週 5 日以上勤務しているという勤務と区長職を兼務している小野寺さんに、率直に今感じていることを伺ってみました。

「(区長に)なる予定はなかった」という小野寺さんですが、改選期に周囲から推され、勤務の関係と「心の準備」で 1 年間副区長として猶予期間を過ごした後、今年 4 月から区長に就任。民区で 8 年の役員経験（会計 7 年、副区長 1 年）があるとはいえ、実際勤務と区長の両立は「先代区長のやってきたことを踏襲するのが精いっぱい」なのが現状だそうです。

「踏襲する」活動

ただ、「踏襲している」活動の様子を伺うと、地域のまとまりも感じられます。例えば月 1 回のサロン活動には、ケアワーカー、包括ケア、駐在さんまで様々な機関・人の協力を得ながら、お世話役も含めおよそ 20 名もの参加があり、11 月の舞川地区文化祭にはサロンで作った作品を出展しています。また、サロンだけでなく敬老会では当祝者の参加率が 8 割以上で、舞川全域の平均と比べても倍以上高く「とにかく高齢者の皆さんが元気です」と小野寺さん。

さらに自主防災会の活動を取り入れた世代間交流会では、炊き出し訓練やバケツリレーといった防災の取り組みから、年齢を問わず参加できる軽スポーツやレクリエーション、その後に芋の子汁や焼き肉での懇親会と続き、最後の抽選会がまた盛り上がります。

もう 1 つ、17 区の有志の釣りクラブからスタートした「舞川自然クラブ」が開催している「水辺の環境まつり」（※現在は舞川市民センターが共催し 17 区以外の参加もあり）は、地域を流れる番台川を会場に、水生生物の観察、稚魚の放流や釣り大会、最後は水位を調整し、川へ入ってつかみ取りを行うというイベントで、30 周年を迎えた今年は小学生以下の子どもたち、保護者、関係者ら総勢約 100 人が参加したそうです。

見えてきたもの、見据えるもの

区長として改めて感じるのは協力的な地域性。前述の各種活動のほか、総会や草刈りなどへの参加率も非常に高く、そこには 17 区が昔から住んでいる世帯が多く「お互いの顔がわかる地域」であることも背景としてあり、特に役員経験者は自身の経験もあってか民区運営に理解のある方が多く、任期が終わってからでも協力してくれるそうです。

一方見えてきた課題に役のなり手の問題があり、それは「区長が参加を要請される場が多すぎる」という別の悩みと無縁ではないかもしれません。勤務形態の多様化による世代間のコミュニケーション不足も感じている「区長としての地域運営は始まったばかりでいまだ模索中。ただ、もう少し懇親の機会を多く持つことに取り組んでみたい。昔は『みんなで集まってやろう』という意識があって、運動会の団体種目を練習して 10 連覇を果たしたこともある。形はお花見でもなんでもいい。まずは集まる場（機会）を増やし、そこに参加する人を少しずつ増やすことで繋がりを強くしていければ」と、これからの見据えて語る小野寺さん。その顔はもう、区長としての表情に変わっていました。



30 周年を迎えた水辺の環境まつり

企業紹介



左：専務取締役 高橋 一夫さん
中：従業員 佐藤 ふじ子さん
右：従業員 辻山 志保さん

～基本情報～

- ◆専務取締役：高橋 一夫 さん
- ◆住所：〒029-3205
一関市花泉町涌津下原 253-4
- ◆電話/FAX：0191-82-3172

生産から消費まで、地域でつなぐ味噌醤油づくり

農家に夢と希望を～農村工業の設立～

一関市花泉町涌津地区を通る一関街道沿いにある花泉味噌醤油株式会社は、昭和 35 年に地元農家などの有志 21 名で立ち上げた企業です。「カ（花）セン（泉）味噌」「カセン醤油」の愛称で、地元の方はもとより、一関市内や宮城県登米市、栗原市などでも家庭の味として 50 年以上親しまれています。

当時の花泉地域は、味噌醤油の主原料となる大豆や小麦の産地であり、昭和 30 年頃から醸造工場の設置を要望していましたが、数年経っても実現に至らず、農家の自家用味噌醤油以外のほとんどは、主原料をそのまま他地域に売却し、加工料、運賃、利益などが加算された高値の製品を外から購入していました。

この不合理な状況を打破すべく「生産から消費まで我々の手で」をモットーに、農村工業として現在まで引き継がれてきました。当時の設立趣意書によると、「地元本位に立脚しておりますので、その株式も一部の少数の手に独占すべきではないと考え別紙株式申込証記載の要領により広く一般に開放しご協力をお願いしたい」との一文が記されており、まさに地域で望み地域で創り上げ、地域で育てた株式会社なのだと思像できます。

味噌醤油の加工技術を受け継ぐ職人の手

初代代表取締役社長の清水善五郎さんは、一関市内の株式会社清水屋の代表取締役社長でもあり、現在はそのお孫さんが四代目を引き継いでいますが、運営の舵を任せられているのは、専務取締役の高橋一夫さんと昭和 53 年から味噌醤油作りに従事してきた社員の佐藤ふじ子さんです。

現在も当時と変わらず、農家さんが持ち込んだ原料（大豆や小麦）を加工して味噌や醤油作りを行っていますが、近年は「地元大豆や小麦栽培農家が減少してきた」と語るお二人。現在は登米市の農家さんから

も原料を仕入れ、味噌醤油作りに努めています。

学校給食センター（6 か所のうち 3 か所で使用）や市内の飲食店でも安心安全な調味料として使用されている今、「地域を思う取り組みから始まったこの企業が、昭和から平成へと続いているのは農家さんのおかげ」と語る高橋さん。「今年は味噌醤油作りに興味を持ってくれた若者も入社し、後継者育成にも力が入ります」と続け、頼もしい若手への期待も膨らみます。

新しい商品開発と昔ながらの物々交換

ベテラン従業員の佐藤さんは、「この工場に住み着いている菌は設立当初から受け継がれてきた宝物。この菌がなければ、昔と変わらぬ味を保つことができません」と工場内を案内してくださいました。同社では、味噌醤油以外にもその原料を使用しためんつゆや秘伝のタレ（商品名：まぼろしのタレ）の加工販売も行っており、特に、佐藤さんが開発したまぼろしのタレは、食材を問わない万能タレと評判で市内の産直やスーパーで取り扱っているほか、口コミから広がり県外からも注文が入るほどです。

工場からは大豆を蒸し、熟成させている味噌の香りがふんわりと香る中、地元農家が持ち込んだと思われる大量の玉ねぎが白肌を見せ、佐藤さんに加工されるのを今か今かと待っている状況でした。

「今は珍しいかもしれませんが、物々交換もしていただいて、お米を持ってきていただくと味噌醤油等と交換することもできます。これも昔からだから。できるだけ地域で生産から消費までできるよう、当時の農家さんたちの思いを引き継いでいきたいです」と最後に語っていただきました。



一関市内では、新鮮館、イオン、やまや、キリンヤなどで販売中。同社専務所でも直売をしています。

センターの ○○!

9月は地域の運動会シーズンでしたが、昨今課題にされている「種目のマンネリ化」でお悩みの地域も多いのでは？そこで試みにスタッフが各地域の運動会プログラムを収集してみたところ、おもしろそうな種目や笑えるネーミングを発見！

数ある種目の中でも特に気になった種目をご紹介します「おもしろ種目の部」と、ユニークな種目名をご紹介します「おもしろネーミングの部」の2つに分けてご紹介します。

おもしろ種目の部

「どじょう復活」

黒沢地区民交流運動会（萩荘）



タライの中でニョロニョロと元気よく泳ぎ回るどじょう。狭いペットボトルの口に入れるのはコツがいりそうです。



若い女性たちがどじょうを掴めず入れられず「キャー」と悲鳴を上げる可愛らしさや、男たちがオラオラとどじょうを掴む男前な姿が見所。

～競技内容～

「どじょう復活」は、行政区対抗の個人レースです。

出場者：30代以下の男1名・女2名

ルール：ペットボトル（2Lサイズ）を持ちスタートし、途中に置かれたタライに入っているどじょうを手で掴み、ペットボトルに3匹入れ終えたらゴールまで走る。

エピソード

昔からどじょうすくいのは種目は行われていましたが、どじょうが獲れなくなったことや、若い人がどじょうを触れないといった声があり休止に。その後、数年前に「どじょう復活」として種目を復活。昔は自分たちで川からどじょうを獲っていましたが、今は購入しています。

あみだされたワザ「地面落とし」

「活きが良いどじょうを掴む」+「ペットボトルに入れる」という2段階のハードルをクリアするために、どじょうをタライから地面にわざと落とし、土・砂でぬめりを除去する技も開発されました。

尚、この技を使用する際はアクシデントを装う演技力としたたかさも求められます。

競技で使われたどじょうは・・・

「地面落とし」の技に頼らずあつという間に3匹を入れゴールする強者も！男性も女性も最後まで大苦戦している方がいましたが、声援を受け無事ゴールに辿り着きました。

競技に使用されたどじょうたちは回収され、最終的には運動会終了後どこかで柳川鍋になるとかならないとか・・・合掌。

おもしろネーミングの部

各地から集めたプログラムから担当者セクションで紹介します。主催者のネーミングセンスに拍手を！

- 「たたせじょうず」（狐禅寺）…44歳以下の女性が一升瓶を足で立たせます。種目名の「くせが強い！」
- 「釣りキチ波平」（日形）…「競技の内容は来てからののお楽しみ」との記載。なぜ三平から波平に？
- 「みちのく一人旅」（関が丘）…小学生が縄でボールを転がすリレー。リレーだけど「一人旅」
- 「大原五種競技」（大原）…「タイヤ引き・カンガルー・宅急便・ポックリ下駄・ビアガーデン」の5種目が個性的過ぎて、内容が想像できません…
- 「厳美新幹線」「東北新幹線」（厳美）…前者はボール送り、後者はムカデ競争。これでもかと新幹線推し！

紹介きれませんが、ほかにもおもしろそうな種目がありました。さらに皆が楽しく参加できる運動会を目指し、他地区の主催者と情報交換するのもいいかもしれませんね。あなたはどの種目が気になりましたか？

おしらせ

イベント

東日本大震災復興支援・西日本豪雨災害支援等 & KOTO アンサンブル

主催：二階堂等三弦教室

「箏 & KOTO アンサンブル」会員による箏の演奏会で、「つるにようぼう」(朗読)、「すずめ」「365日の紙飛行機」などのプログラムを予定しています。繊細で美しい日本の伝統楽器の音色をぜひお楽しみください。

※入場料の一部を復興の義援金として寄付致します。

【日時】平成30年11月10日(土)

開場13時30分 開演14時

【場所】一関文化センター中ホール

【チケット】大人1,000円、高校生以下500円

【チケット取扱所】一関文化センター、さとう屋楽器店 等

【問合せ】0191-82-4604(二階堂)

イベント

中学2年生に贈る
新垣勉 おしゃべりコンサート 8

主催：中学2年生に新垣勉コンサートを贈る会

テノール歌手の新垣勉さんは、生後間もなく不慮の事故で両目を失明し、両親の離別や祖母の他界により14歳の若さで天涯孤独の身となりました。現在は逆境を乗り越え、自分を救った音楽の素晴らしさを伝えるコンサートを全国で行っています。大人のご来場大歓迎です。

【日時】平成30年11月13日(火) 開場13時 開演14時

【場所】一関文化センター大ホール

【入場料】一般3,000円、学生2,000円、

福祉券1,000円

【問合せ】090-5231-4333(吉田)

講座

みちのくワークショップフォーラム2018を
10倍楽しむためのプレワークショップフォーラム

主催：いちのせき市民活動センター

12月8日(土)開催の「みちのくワークショップフォーラム2018」に先駆けて、いちのせき市民活動センターの小野寺浩樹とNPO法人まちづくり学校の稲村理紗さんを講師に「ファシリテーターのベーシックスキル」「まちづくりの現場あるある」など3部構成でお送りいたします。

【日時】平成30年11月17日(土)10時~17時

【場所】なのはなプラザ4階会議室

【参加費】3,000円

【定員】先着16名 ※要事前申し込み

【問合せ & 申込】0191-26-6400

イベント

スイーツバイキング

主催：花と泉の公園

チョコレートケーキ、いちごのムース、チーズケーキ、ロールケーキなど20種類のスイーツが60分間食べ放題です。ソフトドリンクも飲み放題で、カレーやサラダなどの軽食もご用意しています。

【期間】平成30年11月17日(土)~18日(日)

【時間】10時開始(最終入場は14時30分まで)

【場所】花と泉の公園 レストランはずみ

【料金】大人(中学生以上)1480円、小人(小学生)

840円、幼児(未就学児)300円、3才以下無料

※ペゴニア館の入場料は含まれておりません。

【問合せ】0191-82-4066

イベント

第8回かやぶき祭り

主催：かやぶき民家を残す会

会場の「村上家」は築150年以上経つ大きなかやぶき屋根の古民家です。午前は(一社)二科会写真部の方による写真を撮るコツについての講演、もちの振る舞い、午後は布佐神楽の公演を行います。風情あるかやぶき民家の魅力を感じながら、ゆったりとした時を過ごしましょう。

【日時】平成30年11月18日(日)9時~15時

【場所】岩手県指定有形文化財 村上家

(一関市千厩町小梨字不動65)

【料金】入場無料

【問合せ】0191-24-4401(村上)

募集

はじめての精進料理
参加者募集

主催：NPO法人一関のなかなか遺産を考える会

地域の農産物を材料にお料理をつくる「達古袋料理教室」。今回は萩荘柝倉の知勝院住職である千坂英俊氏を講師に、精進料理の基本である「お膳」を教わります。

【日時】平成30年11月25日(日)10時~13時

【場所】旧達古袋小学校

(一関市萩荘八幡154-3)

【定員】10名 ※定員になりしだい締め切ります。

【参加料】2,000円 ※小・中・高校生は無料

【問合せ】0191-29-2511(電話)

【申込】019-903-0179(FAX)

講演

坂本達さん講演会

主催：建部清庵文化顕彰会・青少年育成部会

「所さんの笑ってコラえて!」「世界ナゼそこにな?日本人」でも感動的に放送されたミキハウスの坂本達さんが一関で講演します。坂本さんは、1995年から4年3か月かけて自転車世界一周、43か国55,000キロを走破。2015年からは一家4人で「自転車世界6大陸大冒険」に挑戦しており、その経験談をお話いただけます。

【日時】平成30年11月29日(木)19時~21時

【場所】東山市民センター

【入場料】無料

【問合せ】090-7562-5819(佐藤)

講座

自治会長サミット vol.6

主催：いちのせき市民活動センター

自治会運営に携わるご本人から皆さんへ、生の声で“自治会運営のコツ”をご紹介します。今回は、公民館居酒屋やサンイチ三味線等の活動・運営の工夫等を藤沢31区自治会さんに、井戸活用と地域の防災・減災の考え方について新町会(川崎)さんに発表いただきます。

【日時】平成30年11月30日(金)13時30分~16時30分

【場所】川崎市民センター

【対象】市内自治会長または準ずる役職員の方

【参加料】無料

【問合せ & 申込】0191-26-6400

講座

みちのくワークショップ
フォーラム2018 再集会

主催：いちのせき市民活動センター

ニーズ把握のためのアンケート調査の考え方や企画のタネの見つけ方など、地域づくりの現場はもちろん、日常生活でも役立てられる全9つのワークから、希望するワークを1~2つ選び受講できます。各ワークの詳細は下記HPまで。

【日時】平成30年12月8日(土)9時~18時

【場所】なのはなプラザ

【参加料】スタンダードコース 3,000円

プロフェッショナルコース 5,000円

【問合せ & 申込】0191-26-6400

【HP】<https://www.center-i.org/>

今月の表紙



今月の表紙は、花泉町涌津にある大堤の写真です。堤を挟んだ向こう側には松林があり、穏やかな水面や対岸の風景を眺めながらのお散歩はとても気持ち良さそうですね。涌津には大小さまざまな堤が点在しておりますので、ぜひ足を運んでみてくださいね。

Q&A

あなたの「知りたい」にスタッフが答えます

Q

NPO法人の解散について教えてください。

A

NPO法人は、総社員の4分の3以上の賛成がなければ解散の決議をすることができませんが、定款に別段の定めがある時はこの限りではありません。このほかの解散事由として、定款で定めた解散事由の発生、目的とする特定非営利活動に係る事業の成功の不能、社員の欠乏、合併、破産、設立認証の取り消しなどがあり、事由により用意する書類も手続きの流れも異なります。

